

GREEN ENERGY NEWS vol.22



<<今号のトピックス>>

- ◎ <メイン・トピック> 自然公園と風力発電～環境省検討会を終えて～ (GEN 代表 飯田哲也)
- ◎ <GEN 活動報告 1> 自然エネルギー2004 シンポジウム開催報告 (GEN 副代表 大林ミカ)
- ◎ <GEN 活動報告 2> 系統接続の「標準的な手続き」について検討ー第4回 系統連系研究会の報告ー (畑直之)
- ◎ グリーン電力に関するアンケート結果報告 (東京工業大学 寺本中)
- ◎ 「古い、新人登場です！」ー新スタッフ自己紹介ー (竹村英明)
- ◎ <イベントのご案内> 第3回新エネ利用特措法検証委員会開催

<メイン・トピック>

自然公園と風力発電～環境省検討会を終えて

(GEN 代表 飯田哲也)

国立公園に風車を建てるべきか否か - 規制改革特区からの要請に基づき、昨年夏に始まった「国立・国定公園内における風力発電施設設置のあり方に関する検討会」がこのほど最終答申を終えた。この間、委員として参加し、当事者として見聞きしたことを含めて、GENの皆さんに簡単に報告したい。

最終答申では、国立・国定公園の中で特別保護地区、第1種特別地域又は海中公園地区などの「核心部」での建設を禁止する一方で、第2種・第3種ならびに普通地域については、一定の審査基準（景観、眺望、事前の環境影響評価、事後のモニタリングなど）を設けた上で、事実上の「規制緩和」となった。審査基準は3月15日まで環境省でパブリックコメントを募集中である。

さて、この問題をめぐっては、価値や政治意図が対立することになった。景観や生態系保全が最大の焦点となり、最終答申に先立って行われたパブリックコメントでも、風力発電建設派、限定開放派、自然保護派の3つに意見が分かれたとおり（風力発電建設派が多数派だったが、パブリックコメントの場合には比率の多寡は参考にならない）、「環境」（自然保護）と「環境」（地球温暖化防止）の価値対立が生じた。とくに、検討会の初期には、鳥類への影響がこの価値対立を象徴するものとして注目を集めた。

また、省庁間の利害も衝突した。「国立公園に風車ができるようにする」と書いた小泉首相のメルマガや風力事業者から環境大臣宛に要望書が出されるなど、事務局を務めた環境省国立公園課への風圧の大きさは想像に難くない。とりわけ、規制権限を侵されると過剰反応した経済産業省からの「圧力」は大きかったようだ。そうした中で、環境省国立公園課は、委員の目から見ると、バランス良く最終答申をとりまとめたと思われる。

一連の検討をとおして浮かび上がったのは、む

しろ「国立公園の外」もしくは「風力発電以外」の問題ではないか。「国立公園の外」の問題としては、国立公園内での風車の議論の前に、自然エネルギー政策の「失敗」がある。既報のとおり、2003年度に電力会社が33万キロワットの風力発電を募集し、これに204万キロワットもの風力事業が応募している。当然、これらは「国立公園の外」であり、この204万キロワットの実現が優先されるべきであろう。また、風車の景観が問題になったが、「国立公園の外」の風車の景観問題は放置されたままである。さらに、風車以外の「景観」の問題もある。国立公園だけを「床の間」のように美しく残したとしても、日本社会全体の景観の劣化ぶりは目を覆わんばかりである。現在、景観法が議論されているが、まさしく景観のあり方は国立公園や風車に限らないのである。

また、「風力発電以外」の問題では、送電線や本四架橋などの公共事業が自動的に「公益性」が高いとされ、すでに国立公園の景観を劣化させている例もある。国立公園の景観や自然環境に優先する「公益性」とは何か、問い直しが必要であろう。その他に、景観以外の環境影響の問題もある。もともと国立公園は「美しい自然景観」の保全を目的に設立されたものだが、近年は、生態系保全や原生自然の保全にも拡大されつつある。山口県上関原発のように国立公園の真ん中に計画された原子力発電所とか、宮崎県綾町の世界最大の照葉樹林に建設されつつある揚水発電は、景観への影響は幾何的・視覚的には小さいかもしれないが、「自

然公園の価値」から見るといかなものだろうか。こうした大きな構図からはほとんど議論されなかったが、新しい価値対立を含めて、今後、社会の

成熟に伴って、ますます社会合意の重要性が高まっているのではないか。

	国立公園の「外」の問題	国立公園内の問題
風力発電の問題	・ 風車の景観問題 ・ 自然エネルギー政策の失敗	・ 今回の検討会の対象
風力発電以外の問題	・ 社会全般の景観問題	・ 公共事業と「公益性」 ・ 景観以外の環境問題 ～鳥類保全や原発との対比など

<GEN活動報告1>

「自然エネルギー2004 in Japan」開催報告

(GEN 副代表 大林ミカ)

去る2月25日に日本科学未来館で「自然エネルギー2004 in Japan」を環境エネルギー政策研究所 (ISEP) との共催で開催した。今までニュースレターでも紹介してきた、ドイツ政府が6月にボンで開催する「自然エネルギー2004: Renewables 2004」(以下、「RES2004」)に向け、日本国内の取り組みを活性化させるためのものである。

昨年5月のGEN総会時のヘルマン・シェア氏(社会民主党)に引き続き、ドイツの国会議員であるハンス・フェル氏(緑の党、エネルギー政策広報官)を招聘し、ますます加速する自然エネルギー普及の現状を話してもらった。紙面の関係上、すべて紹介することは出来ないが、印象的なコメントを下に取り上げたい。自然エネルギーが、エネルギー源としてだけでなく、すでに経済的に大きな市場を作り上げていることがわかる。

ここ僅か2年で、自然エネルギー産業に関する雇用は、60,000から130,000へと2倍に成長し、投資額も、330万ユーロから600万ユーロになった。このような結果を支えている EEG (自然エネルギー法) に必要な追加的費用は0.35ユーロセント/kWh (約0.47円。ちなみに日本で原子力の推進などに使われる電促税は0.44円/kWh) ほどである。

また、パネルディスカッションでは、ドイツ・エコ研究所からウーベ・フリッチェ、日本から、河野太郎衆議院議員、RES2004の国際運営委員会に参加している樋口努・資源エネルギー省エネ・新エネ政策課長、トヨタ自動車の笹之内雅幸、ユーラスエナジーの堀俊夫、北海道ニセコの逢坂誠二町長の各氏を招き、GEN代表・飯田がコーディネーターとなって、日本の自然エネルギー市場についての課題と展望について議論した。会場からは岩手県の発言もあった。また、シンポジウム冒頭で

は、ドイツ大使館のクラウス・マテス科学部長がRES2004の紹介と日本への期待を述べた。

シンポジウムに先立つ午前中、6月のRES2004に対して、日本側としてどのような取り組みが可能か、国会議員と幾つかの自治体を招聘し、フェル議員を囲む小さなワークショップを開催した。ドイツ側からは、持続可能なエネルギー政策に取り組む日本の議員や自治体のより多くの参加が要望され、こちら側からは、6月にはISEP主宰でサイドイベントを開催することなどが確認された。

6月まであまり時間はないが、近年最も大きな自然エネルギーの国際会議となるRES2004の内容を日本での自然エネルギー促進へとつないでいくために、自治体や議員に向けた取り組みを強化していきたい。



【写真】パネルディスカッションの風景
(左から飯田代表、フリッチェ氏、河野議員、樋口氏、逢坂町長、堀氏、笹之内氏)

<GEN活動報告2>

系統接続の「標準的な手続き」について検討—第4回系統連系研究会の報告—

GENが主催する「系統連系研究会」の第4回（最終回）会合が、1月15日に開催され、NGO・風力発電事業者・電力会社・省庁・研究者など約20名が参加しました。

今回は、前回第3回で、ローカルな系統への接続に関して、風力発電事業者と東京電力の間で、連系についての紳士的な「手続き」のようなものを作ってはどうかという提案が出されたことを受けて、議論・検討を行いました。法律などの制度化は時間がかかりますが、この部分は風力発電事業者と電力会社との間の自主的な取り決めによって改善しうるからです。今まで技術については「電力系統連系技術要件ガイドライン」がありましたが、契約的・社会的な手続きについては決まっていなかったのが、上手く手続き化して先進事例を目に見える形で積み重ねてゆこうというアプローチです。

GENでは第3回の後に風力発電事業者からアンケートを取り、東京電力からも意見を聞いて、第4回での議論の叩き台として「系統連系協議手続き GEN 標準化案」を作成して提示し、議論・検討を行いました。そして、開発に必要な系統の情報は可能な限り電力会社から風力発電事業者に開示すること、連系（接続）の協議は随時受付とすること、などが望ましいという方向でまとまりました。現在、会合での意見を受けて「系統連系協議の標準的な手続き」を最終的にまとめつつあります。全4回の研究会の整理と合わせて、16日に開催する新エネルギー利用特措法検証委員会（末尾参照）に報告する予定です。

（※本研究会について詳しくは、GEN ホームページに掲載している当日配布資料と議事要旨をご覧ください）

GEN会員の皆様へ—グリーン電力に関するアンケートの結果報告—

（寺本 中／東京工業大学 社会理工学研究科 社会工学専攻 修士2年）

今回お伝え申し上げますのは、昨年度末に実施させて頂いたGEN会員対象アンケートの結果報告でございます。未熟な私のアンケートにも関わらず、有効発送数196通、有効返信数76通、返信率38.4%と高い返信率を得ることが出来、GEN会員皆様の多大なるご協力を頂きました事を厚く御礼申し上げます。

今回実施させて頂いたアンケートは、主にグリーン電力基金とグリーン電力100%製品に関するものでした。グリーン電力基金に関しては、加入したい、したくないと回答した方が約半々であり、加入したい理由は「自然エネルギーの普及に出来ることから始めたい」、加入したくない理由は「基金の使途が不明確」といった回答が多数を占めました。

グリーン電力100%製品に関しては、97.3%の方が製品に関心を示していました。15製品分野の選好に関しては、GEN会員アンケートと平行してエコプロダクツ2003出展企業250社にアンケートを実施しており、15製品分野に該当する企業にグリーン電力100%製品を製品化する可能性をお聞きしました。GEN会員の購入したい分野は、家電・情報機器・事務機、住宅・住宅設備の3分野が高く、エコプロダクツ出展企業では情報機器・事務機、住宅・住宅設備、文具・事務用品の3分野から製品化の可能性が高いという結果が出ました。つまり情報機器・事務機、住宅・住宅設備はGEN会員も購入したい分野であり、企業も製品化の可能性が高い分野であると言えます。

簡単ではありますが、以上が結果報告となります。アンケートへのご協力本当に有難うございました。

「古い、新人登場です！」—GEN新スタッフ自己紹介—

（竹村英明）

このたび、環境エネルギー政策研究所（ISEP）に所属することになりました竹村英明です。昨年秋までは、永田町で政策秘書をやっておりました。衆議院選挙に挑戦、見事落選し、飯田さんから「議

員になるまでは」と、こっちに引っ張られてきました。自然エネルギーとのなれそめは、もう忘れるくらい古い1990年代初頭。某フォーラム2001

のエネルギー部会。ちょうど永田町で働きはじめた頃で、飯田さんとの出会いも同じ頃でした。

1995年には国会秘書からグリーンピース・ジャパンのキャンペナーに転進。ちょうどその年に、あの歴史的な「エネルギー・シンポジウム」を大林さんとともに主催したのです。そして1998年、参議院に当選した福島瑞穂さんに永田町に連れ戻されます。そこで飯田さん、大林さんたちと一緒に作り上げたのが、自然エネルギー促進議員連盟です。明確に固定価格買取制度を実現するための

議連で、最初は飛ぶ鳥落とす勢いでした。しかし、ものすごい経済産業省の反転攻勢の結果、評判の悪いRPS法の日本出現を許すことになってしまいました。

いま平和も環境も日本では冬の時代。でも歴史の流れは変えられないと信じています。この悪法を廃案に、固定価格買取制度の実現を勝ち取るまで、ISEPそしてGENの一員として頑張りたいと思います。

<GEN 主催イベントのご案内>

第3回 新エネ利用特措法検証委員会 開催ご案内

GEN では今年度最後の新エネ利用特措法検証委員会を下記の通り開催致します、傍聴参加を歓迎致します。なお資料準備のため傍聴の方を含め人数を把握したいと思いますので、ご参加を希望される場合は3月12日(金)までにGEN事務局へお知らせ下さい。

○日時：2004年3月16日(火) 14:00～17:00

○場所：参議院議員会館第1会議室(東京都千代田区永田町)

○主催：「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク(GEN) ○協力：自然エネルギー促進議員連盟

○会合の狙い・目的(案)：

第1回・第2回と同じく、新エネ利用特措法施行後の最新の状況を共有し、年度末という点も受け、課題や論点を整理する。

○進行案(現時点の予定です)：

(1)各セクターからの最新情報の提供・共有

- ・堀史郎氏(資源エネルギー庁新エネルギー等電気利用推進室長)
- ・吉田恵一氏(東京電力株式会社企画部調査グループ課長)
- ・可児浩一郎氏(日本風力発電協会事務局長)
- ・林田耕作氏(東京二十三区清掃一部事務組合施設管理部発電計画担当課長)

(2)系統連系研究会の報告(GEN) / (3)電力会社への公開再質問・再回答の報告(GEN) / (4)論点整理など(GEN) (5)国会議員からの発言(適宜) / (6)議論

会員継続のご協力をお願いします

GENの活動は皆さんの会費に支えられています。封筒宛名に記載の期日が会費納入期限です。下記の口座に会費を納入していただき、ぜひとも会員継続にご協力をお願いします。

【年会費】

個人会員 1口 4000円
団体会員・協賛会員 1口 10000円

- ◎ 郵便振替：口座番号 00140-5-120437
- ◎ 銀行振込：三井住友銀行 麹町支店(普) 1748767

※なお、1年以上会費納入が滞っている方は自動的に退会手続きを取らせていただく場合がございますので、ご了承ください。

★★★編集後記★★★★★★★★★★★★★★

先日の「自然エネルギー2004 シンポジウム」に多数の会員の皆様のご来場、ありがとうございました。お陰様で大盛況のうちに終えることができました。また、来る5月22日にGEN総会兼シンポジウムの開催を企画中です。その際またお目にかかれるのを楽しみにしています(詳しい案内は次号のニュースレターでお知らせします)。今年度もご支援ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。(ささもも)

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

GEN ニュースレター(会報)

Green Energy News Vol.22

発行日：2004年3月9日

発行人：「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク

〒164-0001 東京都中野区中野 1-7-3

TEL:03-5318-3332 FAX:03-3319-0330

Email:gen@jca.apc.org

URL:http://www.jca.org/~gen/

(※無断転用・転載はご遠慮下さい)